

安全報告書

2022年度版

和歌山電鐵株式会社

1. 貴志川線をご利用の皆さまへ

当社の経営理念は、創業者が常に大切にしていた「忠恕（ちゅうじょ）」という言葉です。“真心からの思いやり”という意味ですが、我々が生業（なりわい）とする旅客運輸サービスの根底には、人としての思いやりが必要であることを説いているものです。そして、両備グループの統一した経営方針として

- 一、「社会正義」 （社会への思いやり）
- 一、「お客さま第一」 （お客さまへの思いやり）
- 一、「社員の幸せ」 （社員への思いやり）

を掲げ、社会正義の経営方針に則り、「安全」を最優先とし、「日本一安全な運輸企業」を目指し、社会のために、お客さまのために一所懸命に取り組んでゆく企業としての確固たる姿勢を宣言しています。

本報告書は、鉄道事業法に基づき、私どもの安全への取り組みや、安全の実態について自ら振り返るとともに、皆さまに広くご理解いただくために公表するものです。この報告書をご覧になられた皆さまからのお声を輸送の安全に役立て、今後の鉄道事業運営に反映させていきたいと考えています。

和歌山電鐵株式会社

代表取締役専務 磯野省吾（安全統括管理者）

2. 輸送の安全を確保するための安全基本方針

（1）基本方針

私どもの安全に対する基本理念は、第一にお客さまの安全の確保です。

いかなる際にも安全第一の意識を持って事業活動を行える体制整備に取り組むとともに、「安全基本方針」を下記に綱領として掲げ、社長以下従業員一人ひとりが理解し、行動しております。

1. 安全の確保は、輸送の生命である
2. 規程の遵守は、安全の基礎である
3. 執務の厳正は、安全の要件である

（2）安全宣言

社会正義の経営方針に則り、交通運輸各社は「運輸安全マネジメント」に基づき、「安全」を最優先とし、日本一安全な運輸企業を目指して頑張ることを宣言します。

（3）2022年度の方針

安全スローガン

- 一、 コロナ禍乗り越え作業の再構築
一に改革、二に変革、三に実行徹底を

安全目標

- 一、 異常時に備え、必要な知識と技能の向上を
- 一、 作業前には関係箇所との連絡、打合せを確実に
- 一、 スマホ・携帯「ながら運転」絶対禁止（添乗者の列車無線は除く）

鉄道輸送の使命である安全・安心な鉄道、そして日本一心豊かなローカル線を目指し、当社を取り巻く環境の変化に敏感に察知して前向きな姿勢で臨むことを肝に銘じ、沿線の皆さまのご期待にお応えするためにも、事故は絶対に起こさないという強い気概をもって継続して取り組んでいきます。

運転部門・技術部門とも、基本動作の厳守を第一義に、常に点検・反省を怠らず、また社員間では「ご安全に」を挨拶言葉に、お互いに「安全」を意識する、そんな職場風土づくりに努めています。

3. 事故等の発生状況とその再発防止措置

(1) 鉄道運転事故

2022年度に発生した有責鉄道運転事故等は0件で、開業以来17年連続「0件」を継続中です。また、省令に定められた列車衝突事故等の事故もありませんでした。

(2) 輸送障害

2022年度に発生した輸送障害は5件です。

ア、2022年6月29日（水） 13時30分発生

- ・場 所 西山口2号踏切道内
- ・原 因 線路内支障（自動車による接触で踏切防護柵が線路側へ倒れる）
- ・影 響 支障時間 35分 運休3本、遅延1本

イ、2022年7月25日（日） 12時30分発生

- ・場 所 吉礼～伊太祈曾間
- ・原 因 軌道回路区分用の絶縁体が粉碎
- ・影 響 支障時間 2時間09分 運休8本、遅延3本

ウ、2022年9月1日（木） 4時40分発生

- ・場 所 伊太祈曾変電所
- ・原 因 落雷による輸送障害
- ・影 響 支障時間 1時間50分 運休3本、遅延1本

エ、2022年9月19日（月） 10時34分発生

- ・場 所 交通センター前～岡崎前間
- ・原 因 線路内支障（台風による倒木）
- ・影 響 支障時間 39分 運休2本、遅延2本

オ、2023年3月8日（水） 15時53分発生

- ・場 所 山東～大池遊園間
- ・原 因 車両故障による輸送障害
- ・影 響 支障時間 1時間14分 運休3本、遅延2本

(3) その他

ア、踏切しゃ断稈折損

2022年度に発生した踏切しゃ断稈の折損事案は5件（前年比+4件）でした。

毎年、同事案は数件発生しています。

踏切事故防止キャンペーンや春秋の全国交通安全運動等、機会を捉えて啓発ポスターの掲示や無人駅放送・車内放送等を展開し、交通ルール遵守への啓発活動を継続していきます。

また、運転従事員に対しては毎月20日を踏切事故防止強化日と定め、踏切事故の防止に努めています。

設備面では、折損状況を分析し事故防止対策を検討するとともに、交通量の多い踏切道においては折損防止緩衝機器を設置し、一定の効果がでています。

【しゃ断稈折損状況】

2022年	8月27日	日前宮6号踏切道
	9月22日	日前宮2号踏切道
	11月9日	日前宮4号踏切道
2023年	2月21日	岡崎前2号踏切道
	3月22日	日前宮6号踏切道

イ、置き石等

2022年度に発生した置き石事案は1件（前年比+1件）。

引き続き、過去に発生した箇所の重点的に徒歩巡回等を行い、いたずら排除に取り組んでまいります。

(4) 事故・故障の芽

事故に繋がるミスと考えられるATS動作による列車が停止した事象が1件、機器取扱い誤り2件が発生しました（昨年度は1件、前期比2件増）。上記3件のミスは人的要因に起因する事故の芽と受け止め、当該者には特別教育を実施し、その中で要因の検証と分析を行い、原因を洗い出し、当該者に適した新しい防止策の実行に努めさせています。

また、勤務に支障しない生活リズムの自己チェックと、個人に適合した運転リズムの確立を探究させ、惰性に流された作業になっていないか等、現状の取組みの修正を考えさせる指導により、当人も納得させられる内容の特別教育としています。

同種事故を防止するため、運転士全員に点呼伝達で知らしめるとともに、業務教育等でヒューマンエラー対策とした「基本動作の励行」の重要性を周知徹底させ、粘り強い教育指導で、今後も引き続き事故の芽を確実に摘み取り、日本一安全・安心な鉄道を目指して取り組んで参ります。

4. 輸送の安全確保に対する取り組み

【全社での取り組み】

(1) 安全マネジメント会議の開催 1回/月

安全統括管理者、部長、課長、助役、主任等により安全マネジメント会議を開催し、事故・異常事態発生時の対応状況や原因究明・再発防止策、教育・訓練等の実施状況、施設車両等の管理状況、苦情等のお客様の声、職場の問題点と解決方法を議題とし、安全管理に取り組んでいます。



安全マネジメント会議の様様

(2) 労働災害の防止

本社には社内連続無災害記録を掲出して全員に周知するとともに、安全マネジメント会議や定例業務教育において、安全作業基準・安全作業10訓の遵守を強調し、季節による要注意作業等を抽出して注意喚起するなど、災害「0」を目指して鋭意努めています。

全国安全週間においては、特に触車事故防止の徹底、過去の災害事例の確認、駅施設の安全パトロール等を実施し、不安全な状態を発見したときは早急に補修等を行っています。

※ 連続無災害記録 2023年3月31日現在 528日

(3) 健康管理

定期健康診断の受診（深夜業に従事する者は年2回）とともに、所見のある者への再検査受診を徹底しています。

また、全社員を対象に出勤時の呼気アルコールチェックを義務付けており、基準を越える数値が確認された場合には、就業を認めていません。

(4) 各種運動への積極参加

交通安全運動等、各種運動期間までに、取り組み計画を立て、全員で取り組んでいます。期間中は、添乗指導の強化期間として指導項目を明確にし、長・助役・主任は施設の点検及び携帯品の確認を行っています。

(5) 2022年度の取り組み

ア、「新交通三悪撲滅運動」

本年度も、両備グループ全体の取り組みとして

1. アルコール検知違反ゼロ
2. スマホ・携帯ルール違反ゼロ
3. バック事故ゼロ（踏切事故防止）

の運動を展開し、当社では全社員でゼロを達成しました。

イ、新型コロナウイルス感染症対策

お客様に安心してご利用いただくため、全社員のマスク着用・体温チェック・手洗い・アルコール消毒の励行、主要駅への消毒液の設置、電車内等の抗菌・抗ウイルス加工、車両の窓開けによる換気、電車内の定期的な消毒、咳エチケット等の呼びかけなどを行いました。事務所内でも、定期的な換気、密を避けた食事、パーティションの活用等の対策も取っています。

また、感染拡大防止の観点から終電の繰り上げや、ご利用の減少による一部列車の減便を行いました。お客様には大変ご不便をお掛けしましたこととお詫び申し上げます。

コロナ禍でもご利用下さっているお客様は、真に貴志川線を必要として下さっている方という感謝を胸に、皆様の期待に応えられるよう取り組んでまいります。

【運転部門での取り組み】

(1) 助役会議の開催

毎月1～2回実施。効果的な指導を行うため、何を率先垂範していくか等各自の考え方を発表し、統一した方針で指導することを目的としています。また、

係員に対する指導方針や月間重点の取組み状況の成果と問題点を抽出し、定例業務教育の内容に反映させています。

ア、具体的な指導内容について

各監督者がリーダーシップを発揮し、指導方針や月間重点に則り、現場係員に対して自己啓発を含めた効果的な指導を行っています。

イ、異常気象時の対策について

昨年度の異常気象等発生時の運転整理について検討し、事例を参考にした運行計画の研究を行っています。

ウ、保安装置故障時の対策について

過去の事象事例を参考に信号機を使用できない時の要員配置、代用閉そく方式施行時の取扱いの研究（故障車両収容等を含む）を行っています。

(2) 定例業務教育の実施

助役が講師となり、年間教育計画に基づき定例業務教育（運転士は3時間×4回＝年12時間、駅掌は2時間×3回＝年6時間）を実施しています。

安全作業・職責の自覚・接遇研修・営業規則・鉄道運転規則・車両故障処理等を中心に、必要な場合には面接指導も行います。



定例業務教育の様様（車両故障処置実習）

(3) 日常の監督・指導

ア、厳正な点呼

運転等に関わる要注意事項の伝達、心身及び健康状態の確認を実施しています。アルコール検知器（0.01 mg/ℓで反応）が反応した場合は、乗務停止の処置をとっています。

イ、厳正な執務（運転姿勢等）への添乗指導

安全運転には、常日頃からの基本動作の励行が第一であり、運転士に対する添乗での観察、チェックが最も重要な指導方策と考えています。

監督者は、常に心掛けて添乗指導の機会を多く持ち、運転技術査察を実施し、運転技能とともに接遇技能のレベルアップを図っています。

ウ、基本動作の励行

基本動作の事前・事後の確実な確認こそ、最重要で欠かせない行為であることを重視し、「決められたことは確実に実行する」を強調指導しています。

緊急時の適切な非常制動処置と短急気笛吹鳴の処置の重要性も併せて指導しています。

エ、健康管理

事故防止のため、SAS（無呼吸症候群）検査及び薬物検査を実施しています。

【技術部門での取り組み】

(1) 技術課課内会議の実施 1回/月

毎月の作業実績、翌月の行事と作業予定の確認及び技術課教育として、課題研修を実習中心に実施しています。

(2) 保守外注責任者会議の実施 1回/年

保守外注会社の現場責任者と技術課全員で、作業の安全、意見、問題点等の検討・討議を行っています。

(3) 2022年度の取り組み

◆ 合同研修

2022年6月 技術部門にて各担当の合同研修の一環として、雨季を見据えての車両用ワイパー取替教育をいたしました。



研修風景

5. 安全に関する設備投資実績と今後の取り組み

(1) 2022年度の設備投資実績

◆ 軌道の更新【和歌山～田中口間・田中口～日前宮間】

保安度向上及び老朽化対策として、曲線区間の軌道材料（道床、コンクリート枕木）の更新を行いました。



和歌山～田中口 竣工後



田中口～日前宮間 竣工後

◆ 支持物・電源設備の更新【伊太祈曾～山東・山東～大池遊園間】

保安度向上及び老朽化対策として、支持物及び電源設備の更新を行いました。



伊太祈曾～山東間
電源設備更新 竣工後



山東～大池遊園間
支持物更新 竣工後

2022年度の安全輸送に係る設備投資金額は、合計 123 百万円です。

(2) 2023年度の設備投資予定

施工内容	施工箇所	事業費
コンクリート枕木化 及び道床砕石化	岡崎前～伊太祈曾間	46百万円
鋼柱化	日前宮～神前間	15百万円
軌道回路更新	山東～甘露寺前間	14百万円

(3) 防災・減災への取り組み

近年相次ぐ豪雨による地域の浸水被害の軽減等を目的に、河川・排水路の改修が行われることに伴い、2020年度より実施していた以下の2橋梁の内、平尾第1橋梁の工事が完了いたしました。

	橋梁名	工事概要	事業期間
竈山～ 交通むろ-前間	和田第5橋梁	岡崎排水路改修に伴う 橋梁架け替え	2020年9月 ～2024年3月
吉礼～ 伊太祈曾間	平尾第1橋梁	永山川河道拡幅に伴う 橋梁架け替え	2020年10月 ～2023年3月



和田第5橋梁



平尾第1橋梁（竣工）

(4) 沿線住民の皆様へのお願い

当社は安全輸送を確保するため、鉄道施設の保守改良に努めておりますが、電車の運行時間中に出来ない作業については、やむを得ず夜間に実施しております。何分にも深夜の作業ですので、使用する機械や作業の騒音等で大変ご迷惑をお掛けしますことは誠に心苦しい限りですが、安全輸送には不可欠な作業であります。皆様へのご迷惑を最小限にするよう努力いたしますので、趣旨をご理解いただき、なにとぞご容赦くださいますようお願い申し上げます。

(5) 今後の設備更新計画

貴志川線の最大の課題は、施設（道床・枕木・架線柱・信号及び踏切等）の老朽化ですが、今後も自治体等と十分に協議して、個々の設備を確実に精査して更新計画を定め、安全性及び利便性の向上を図ります。

ア、木枕木のコンクリート枕木化、道床の砕石化

線路の保安度向上及び乗り心地の改善を行うため、枕木の更新及び道床砕石化工事を年度計画の作成を行い、順次施工してまいります。

イ、木柱（支持物）のコンクリート柱化、高圧配電線の絶縁電線化

経年劣化による老朽化木柱の更新及び裸配電線の絶縁電線化を行います。

ウ、閉そく用分周軌道回路、AFO軌道回路の改修

40年以上の経年劣化による老朽化が著しく、計画的な更新計画を立案いたします。

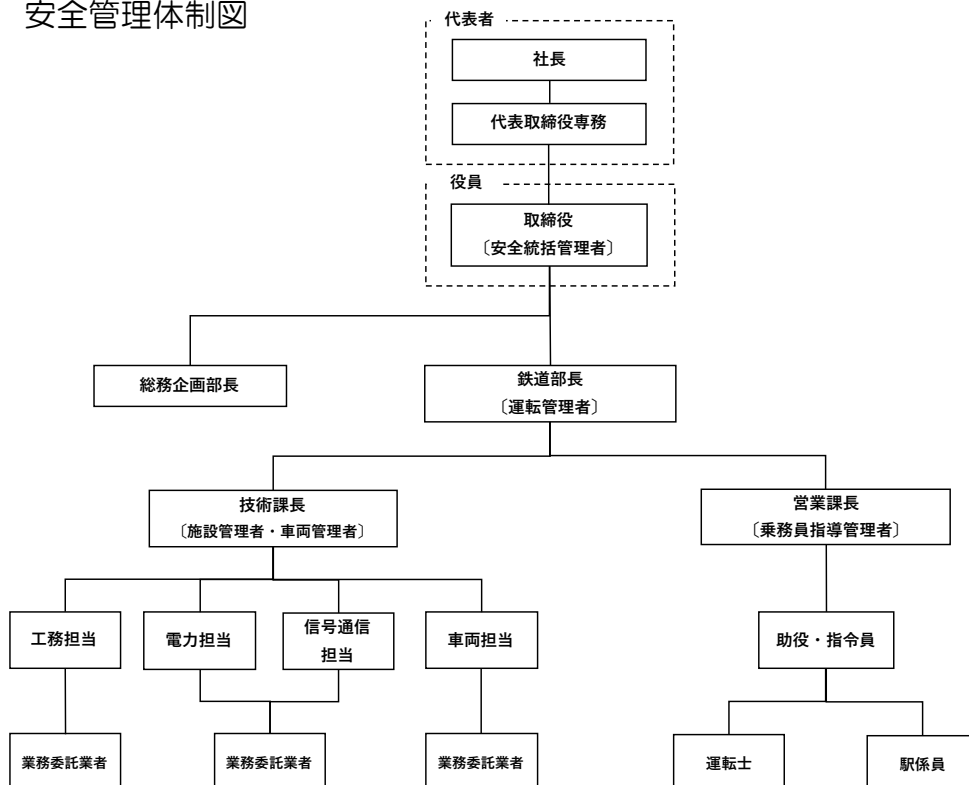
常に事故の無い、故障を起こさない鉄道施設を目指した維持管理に当たっておりますが、当面は老朽設備の改修を積極的に実施してまいります。

また、故障や事故等異常時における安全輸送の確保、列車運行の影響を最小にする等の対応方も常に検討、研究し、速やかな復旧対応に取り組んでまいります。

7. 和歌山電鐵(株)の安全管理体制

代表者を最高責任者とし、実務執行責任者である安全統括管理者のもと、各責任者の責務を定めています。

安全管理体制図



職名	役割
代表者 専務取締役	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
取締役 (安全統括管理者)	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
総務企画部長	輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。
鉄道部長 (運転管理者)	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
営業課長 (乗務員指導管理者)	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
技術課長 (施設・車両管理者)	安全統括管理者の指揮の下、軌道施設に関する事項及び、車両に関する事項を統括する。

8. 地域の皆さまとの連携

(1) 貴志川線運営委員会

貴志川線の永続的運営を基本理念として、事業者、行政及び地域が連携し、貴志川線の利用促進と沿線のまちづくりの推進を目的に組織されました。

和歌山県、和歌山市及び紀の川市の交通政策担当課、和歌山商工会議所、紀の川市商工会、和歌山東高校、貴志川高校、貴志川線の未来をつくる会、和歌山の交通まちづくりを進める会、そして当社がメンバーとなり、毎月第2木曜日に定例の委員会を開催しています。

上記の目的に沿って、運輸実績、イベント、輸送障害等の報告から、沿線住民の貴重なご意見、安全対策も含めて、さまざまな意見交換、情報交換を行っています。

(2) 沿線の住民団体との協働

存続の危機に際し結成された住民団体「貴志川線の未来をつくる会」の皆様からは、「貴志川線祭り」「駅のペンキ塗り大会」「たけのご掘り」「じゃがいも掘り」など数多くのイベントをはじめ、多客時の整理、駅周辺へのポスティング、駅の大掃除、そして電鉄グッズの販売に至るまでご協力を得て、まさに電鉄と一心同体になって活動しています。

また「山東まちづくり会」などの沿線のまちづくり団体とも、様々な企画やイベントを通じ、地域活性化の一助となるべく、ともに活動しています。

ご連絡先

安全報告書へのご感想、当社の安全への取り組みに対するご意見をお寄せください。ご連絡先は次のとおりです。

和歌山電鐵株式会社	〒640-0361 和歌山市伊太祈曽73番地
TEL 073-478-0110	FAX 073-466-3577
E-mail info@wakayama-dentetsu.co.jp	
■業務時間 月～金曜日 8:30～17:30 (土日祝及び年末年始は除く)	